

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年11月号 通巻11号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

秋の夜、隣は何を食う人ぞ

タヌキ(のフン)は何でも知っている？



左=エノキタケ、右=スライスされたシイタケ。どちらも黒く、干からびているが、これは乾燥させたため。しっかり乾燥させないと、カビが生えて後で大変なことになるのだ。フンから出てきた時、エノキタケはやや黒ずんではいたが、明らかにそれとわかる形状だった。採集地は東京都中野区。

さて、今回もフンの話です。カタナイな一と思われても、これを調べることがタヌキ研究の基本ですからやらないわけにはいきません。

東京タヌキは果実や昆虫などの自然物だけでなく、人間由来物、つまり生ゴミなども食べていることは以前にも紹介しました(2009年5月号)。今回紹介するのもそんな人間由来物なのですが、これがありふれた、しかし同時に奇妙な物体だったのです。

エノキタケにシイタケ？

例によってフンを水洗いしていると、すぐに何やら細長い物体が出てきました。ひょろりと細い物の先っぽには傘。んん？ これって、スーパーでもよく見かけるエノキタケ？ そこらに生えている野生のエノキタケを食べたのかと思ってしまいましたが、そうではありません。色白のひょろ長いエノキタケは人工栽培されたもので、野生のエノキタケは普通のキノコのような形をしています。ですから、フンから出てきたこ

のエノキタケは間違いなくお店で売っている物なのです。

「でも、中には似たようなひょろ長い野生キノコがあるかもしれない」と思われる方もいるでしょう。しかし、同じフンから次に出てきた物体によって私の推理は証明されました。フンの中から出てきたのはまたしても大きな物。しかも、これは、明らかに…シイタケです。しかもスライスされたシイタケ！ 野生でスライスされたシイタケなんかありません。タヌキが包丁持って切るわけがありませんし、タヌキがスーパーに行ってお買い物をしてきたわけでもありません。これは明らかにタヌキが生ゴミを食べた証拠と断言できます。エノキタケにシイタケ…採集したのは11月中旬…ということは鍋か？それとも茶わん蒸しか？ どこかのご家庭の食卓の風景が見えてくるようです。

この季節なら窓もカーテンも閉めているはずで、お庭にタヌキが来ても気づかないでしょう。ですからタヌキに食べ物を投げ与えた、ということではなさそうです。タヌキが生

ゴミを食べたのはかなり確実と言えるでしょう。

タヌキは人間を観察している

それにしても不思議なのは、いつタヌキが生ゴミを食べたのかということです。東京都ではゴミの回収は午前中ですので、ゴミは朝のうちに出すことになります。夜行性のはずのタヌキが生ゴミを狙って朝まで待っていたのか、あるいは深夜にゴミを出す人がいることを知っているのか。いずれにせよ、タヌキは人間の行動をよく観察していることをうかがわせます。人間がタヌキに気づいてなくても、タヌキは人間のことをよく見ているようです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>